

# 河川基金助成事業

## 「釣り人による清掃活動」

助成番号：2023-6111-014

淡海を守る釣り人の会

木村建太

2023 年度

様式6

1. 川づくり団体部門

[概要版報告書]

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2024-6111-014	釣り人による清掃活動	淡海を守る釣り人の会 代表 木村 建太
助成事業の要旨	活動の目的	
	琵琶湖淀川水域で釣りを楽しむ釣り人が、楽しい思い出をくれた水辺および生き物に対し、「来た時よりきれいにして帰ろう」「子や孫の世代も気持ちよく水辺で楽しめるよう、自分たちに出来ることから取り組んでみよう」といった考えから、水辺の清掃活動や小さな自然再生、子ども釣り体験教室等の活動に取り組んでいます。当初は数名程度での活動でしたが、年々賛同者が増え、今では清掃活動で最大 300 名程度の参加者が集まるようになりました。また、釣り具メーカーだけでなく、セブン-イレブン等の一般企業にもご協力いただき、釣り人に限らず、「琵琶湖を愛するすべての人」に参加いただける活動になってきました。このような活動と合わせて、水辺でのライフジャケット着用の啓発を行うことで、安全に・持続的に・楽しく水辺で楽しめるビジョンを、参加者および協力企業等とともにこれからも描いていきます。	
事業テーマ	クリーンアップ・自然保護活動・体験型イベント・釣り人による清掃活動	

### 【実施内容】

(助成対象となった事業・活動について、活動の対象者、実施方法、他の団体等からの支援等の内容について簡潔に記述してください。またイベントやセミナーを開催した場合は、その参加人数を必ず記載してください。)

⇒この説明文は、削除して記入してください。以下同じです。

#### ●「第28回釣り人による清掃活動 with AXSEED」の開催

日時：2023年4月9日(日) AM

場所：琵琶湖岸(滋賀県草津市志那町付近)

参加人数：70人

協力団体：(株)AXSEED

回収ごみ内訳：可燃ごみ50袋、ペットボトル151本、缶120個、瓶70個、不燃ごみ3袋

#### ●「第5回琵琶湖漕艇場清掃活動」の開催

日時：2023年4月16日(日) AM

場所：琵琶湖岸(滋賀県大津市玉野浦「滋賀県立琵琶湖漕艇場」付近)

参加人数：40名

協力団体：関西ローイングセンター、漕艇部員(大津市内各中学生等)

回収ごみ内訳：可燃ごみ12袋、ペットボトル94本、缶30個、瓶13個、不燃ごみ1袋

#### ●「子ども釣り体験教室」への協力

日時：2023年4月22日(土) AM

場所：野洲川(滋賀県守山市幸津川町付近)

参加人数：20人

協力団体：守山市

#### ●「第8回滋賀セブンの森」の開催

日時：2023年5月28日(日) AM

場所：琵琶湖岸(滋賀県守山市今浜町「第2なぎさ公園」付近)

参加人数：261名

協力団体：滋賀県、守山市、(一財)セブン-イレブン記念財団、(株)セブン-イレブン・ジャパン  
(株)デプス、(株)ジャッカル、(株)ささめ針、昭和電機(株)  
守山市立明富中学校生徒会執行部

回収ごみ内訳：可燃ごみ83袋、ペットボトル1,260本、缶・瓶550個、不燃ごみ多数

備考：清掃活動のほか、水辺の小さな自然再生を実施

#### ●「MUFG × 淡海を守る釣り人の会 清掃活動」の開催

日時：2023年6月18日(日) AM

場所：琵琶湖岸(滋賀県草津市矢橋町「矢橋帰帆島」付近)

参加人数：136名

協力団体：(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ

回収ごみ内訳：可燃ごみ154袋、ペットボトル4,000本、缶2,850個、瓶250個、不燃ごみ50袋

#### ●「第16回水辺の匠」へのブース出店

日時：2023年7月23日(日) 9:30~16:00

場所：ウォーターステーション琵琶(滋賀県大津市黒津4-2-2)

主催：ウォーターステーション琵琶の会、琵琶湖河川事務所

#### ●「第9回滋賀セブンの森」の開催

日時：2023年9月24日(日) AM

場所：琵琶湖岸(滋賀県守山市今浜町「第2なぎさ公園」付近)

参加人数：230人

協力団体：滋賀県、守山市、(一財)セブン-イレブン記念財団、(株)セブン-イレブン・ジャパン  
日本コカ・コーラ(株)、昭和電機(株)

回収ごみ内訳：可燃ごみ 70 袋、ペットボトル 1,600 本、缶 300 個、瓶 70 個、不燃ごみ 5 袋  
備考：清掃活動のほか、水辺の小さな自然再生を実施

●「第 29 回釣り人による清掃活動」の開催

日時：2023 年 11 月 26 日（日）AM

場所：琵琶湖岸（滋賀県草津市矢橋町「矢橋帰帆島」付近）

参加人数：51 名

協力団体：(株)三菱 UFJ フィナンシャル・グループ、(株)村田製作所、日本コカ・コーラ (株)

回収ごみ内訳：可燃ごみ 83 袋、ペットボトル 2,250 本、缶 500 個、瓶 180 個、不燃ごみ 15 袋

●「ヨシ刈り&移植イベント」の開催

日時：2024 年 1 月 20 日（土）AM

場所：野洲川河口付近

参加人数：32 名

協力団体：琵琶湖河川事務所

●「第 30 回釣り人による清掃活動」の開催

日時：2024 年 2 月 25 日（日）AM

場所：琵琶湖岸（滋賀県草津市志那町付近）

参加人数：100 名

回収ごみ内訳：可燃ごみ 131 袋、ペットボトル 930 本、缶 360 個、瓶 70 個、不燃ごみ 1 袋

〔成 果〕

（上記実施内容について、それぞれどのような成果が得られたのかを簡潔に記述してください。）

清掃活動は計 7 回開催し、合計で可燃ごみ 583 袋（45L 規格）、ペットボトル 10,285 本、缶瓶 5,363 個、不燃ごみ 75 袋以上を琵琶湖から回収することが出来た。大規模清掃活動以外にも、会員が個人的に日頃の釣行時にごみを拾ったり、友人らと都市部の清掃活動に参加するなど、ごみ問題の解決に精力的に貢献することが出来た。参加者は合計で 888 名となり、県内外から多くの参加者にお集まりいただいた。活動後には当会からの SNS 発信だけでなく、参加者それぞれも SNS 等で活動結果を発信して下さったことで、「SNS で見て活動を知って来ました」「友達が前回来ていたので、今回は自分も来てみました」といった新規参加者にも出会うことが出来たり、より広く当会の活動を知っていただける機会となった。

親水活動の一環で、令和 5 年度は釣り体験教室やヨシ刈り体験イベントなども開催した。釣り体験教室については、定員 20 名が一瞬で埋まってしまうほど好評で、「子どもが釣りをしてみたいと言っているが、親も釣りをしたことがないので教えることが出来ずに困っていた」といった声が多く聞かれ、当会が想像していた以上に需要があったことがわかった。ヨシ刈り体験イベントについては、琵琶湖河川事務所と共催で開催した。普段の清掃活動にも参加してくれている釣り人たちが本イベントにも参加をしてくれ、魚のゆりかごとも言われるヨシ帯の保全に協力するとともに、河川利用者と河川管理者がともに活動する機会を創出することで、相互理解につなげることが出来た。今後も引き続き琵琶湖河川事務所と連携して様々な取り組みを実施していく予定である。

すべての活動に共通して、「水辺での活動時にはライフジャケットの着用を必須」とし、安全に水辺で楽しむ上でのライフジャケットの必要性を訴えた。

## 【今後の展望】

(今後の活動の方向性や抱負などを簡潔に記述してください)

琵琶湖は近畿圏約 1,400 万人もの人を支える水源であるほか、多くの固有種を育む世界有数の古代湖であることから、当会が取り組んでいる様々な活動が持つ意義は大きいものがあると思う。しかし、清掃活動をする度に大量のごみを回収することが出来ているということは、それだけ多くのごみが日頃から琵琶湖に供給されているということであり、ごみの発生源から解決していく必要があることを思い知らされる。そのため、当会としては、引き続き行政としっかりと連携し、琵琶湖の現状、ごみ問題の現状を現場目線で伝えていくことで、それぞれの立場でやるべき役目を果たして官民連携で問題解決へと繋げていけるよう、意識して取り組んでまいりたい。

特に清掃活動については、回を重ねてきたことで、事前準備や当日運営など、活動に安定感が出てきたように感じる。まだまだ琵琶湖のごみ問題等が解決したわけではないが、このような時だからこそ、ただ琵琶湖のごみを拾って満足するのではなく、如何にこのような活動を県内外の若者に周知し、新たな環境リーダーの芽を育む機会へと各活動を昇華できるか考えていかないといけないと考える。実際に、ここ数年は県内の小中高生が活動に参加してくれているほか、会員としても大学生および大学院生が複数名在籍していることから、これまでの活動を継続した上で、さらにプラスαを考えていきたい。

親水活動については、当会メンバーの多くが「釣りをきっかけに水辺にごみ問題や環境問題に関心を持つようになった」という経緯を持っていることから、水辺を好きな人を増やすことが、水辺を守る人を増やすことにもつながりうると考える。そのため、今後も引き続き釣り体験教室などを開催することで、未来の水辺の守り人を増やす種まきにも取り組んでいきたい。さらに、近年さらに注目されるようになった生物多様性保全についても、水辺の小さな自然再生への協力など、行政や研究機関としっかりと連携しながら貢献してまいりたい。

※ポイントとなる事項に適宜アンダーラインを引いてください

様式7

2.川づくり団体部門

[自己評価シート]

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2024-6111-014	釣り人による清掃活動	淡海を守る釣り人の会 代表 木村 建太

## 〔当初目標の達成度〕

1. 水辺のクリーンアップ推進(琵琶湖・淀川の活動範囲拡大と他団体との協働で活動推進と会員数アップ)  
→令和5年度は4か所・計7回清掃活動を開催し、琵琶湖南湖から北湖まで、広範囲での展開が出来たと考える。活動参加者においても、釣り人だけでなく、行政や学生、地元企業、あるいは滋賀県にルーツを持つ県外企業など、様々な方と連携して活動を展開することが出来た。また、「釣り人による清掃活動」「滋賀セブンの森」合わせて約40回活動を継続してきたところではあるが、それでも令和5年度においても初めて当会の活動に参加してくださった方が複数名おり、SNS等での発信の甲斐があり、清掃活動への協力者を増やすことが出来たと考える。
2. ライフジャケット着用推進（水辺で遊ぶ人すべてが着用するように釣り人間で推進拡大、SNSなど利用）  
→清掃活動や釣り体験教室など、当会が主催するうち、水辺に近づく活動においては全てでライフジャケットの着用を必須として徹底した。また、その旨をSNS等で発信するほか、清掃活動の際にはライフジャケット着用の啓発を目的とするのぼりも受付場所周辺に設置する等し、啓発に努めた。
3. マナー啓発（立入禁止や釣り禁止区域のSNS発信で警告、行政への連絡など）  
→当会公式SNS（HP、X、Instagram、Facebook）や、そのほか会員個人のSNSも活用し、マナー啓発に努めた。
4. 水辺の小さな自然再生での魚貝類の増加(ゴミ除去と湖底の清浄化による産卵場所拡大など)  
→滋賀セブンの森の活動内にて、水辺の小さな自然再生を継続的に実施している。過去の活動により、琵琶湖との接続が途切れていた廃川の接続を回復し、琵琶湖から魚類が遡上出来るようにしてきた。令和5年度においては、引き続きコイやフナが琵琶湖から遡上して産卵する様子が見られたほか、例年にはなかった様子としては、カネヒラの仔魚を大量に確認した。

## 〔活動の創意工夫点〕

1. SNSでの情報発信に力を入れたほか、チラシを作成して県内の釣具店複数店舗に掲出いただいたり、釣り業界におけるインフルエンサー（釣りガイドなど）にも情報発信にご協力いただくなど、最大限活動を周知出来るように工夫した。
2. 清掃活動の参加申し込み時には、申込フォーム内に「ライフジャケット着用が必須です。貸出が必要な方は必要数を教えてください。」といった質問項目を設けることで、水辺での活動にはライフジャケットが必須であることを改めて認識いただける機会とした。SNSでの発信については、①と同様。
3. ①と同様。
4. リバーフロント研究所や龍谷大学など、学識経験者に随時アドバイスをいただきながら活動に取り組んだ。滋賀セブンの森の活動時だけでなく、定期的に現場に足を運ぶことで、自然環境の変化を敏感に感じ、それに合わせた対応もできるように意識をした。元々、河床にヘドロが堆積して魚類にとって暮らしにくいと思われる部分も多かったことから、滋賀セブンの森の活動時には、子どもらも含めて複数名で胴長を履いて川に入り、河床を攪拌してヘドロを解消できるように取り組んだ。この甲斐もあってか、活動スタート時と比較すると、見違えるほど河床のヘドロは改善し、二枚貝や繁殖時にこれを必要とするタナゴを確認できるようになっている。

## 〔地域や河川管理者との連携〕

活動の実施にあたっては、滋賀県や所管する市町（守山市、草津市、大津市）、水資源機構、琵琶湖河川事務所などへの申請事務を適切に行うことは勿論のこと、当日の活動へご参加いただくなど、密接に連携をしながら取り組んでいる。連携体制を構築出来ているからこそ、滋賀県からシンポジウム出席の依頼があったり、守山市や琵琶湖河川事務所から共催としてのイベント開催への協力依頼をいただくなど、清掃活動以外の面での連携も取れている状態にある。そのほか、地域の学生や、NPO法人草津湖岸コハクチョウを愛する会

などの他団体、セブン-イレブン記念財団や MUFJ などの大手企業とも連携をしながら、産学官民連携の活動となるように意識している。

#### 〔今後の展望〕

河川財団さまからの継続的なご支援のおかげで、令和5年度においても継続的に清掃活動などの活動を継続することが出来た。継続してきたことで周囲からの信頼も高まり、活動時には自治体も参加してくれているほか、学生や企業、県や市の議員なども参加してくれるような活動になっている。河川利用者として、「釣り人」という存在は一定身近なようで、自治体等の目線からすると、関係を持つと思って声掛けをするに見合う団体があまりいないのだろうと推察するが、滋賀県においては当会がその役目を担えていることで、滋賀県主催のシンポジウム等への出席を求められるようになっている。さらに、日頃の清掃活動から、地域の方々との交流を大事にしてきたことで、「対岸の木に釣り糸が絡んで逃げれなくなった水鳥がいるので助けてほしい」といった声を当会あてにいただき、すぐに会員が現地へ行ってフローター（ゴムボートのようなもの）を使って救出するというシーンもあった。継続してきているからこそ、学生が自らの学び（ごみ問題などの課題研究のため等）のために参加してくれることも増えており、「琵琶湖で清掃活動等に取り組んでいる釣り人といえば、淡海を守る釣り人の会」という認識も広がっているように思う。今後も引き続き自治体や地域との連携を大切にしながら、釣り人が日頃釣りを楽しんでいる水辺への恩返しので、かつ、地域貢献にもつながるような活動を継続してまいりたい。

# 第5回琵琶湖漕艇場清掃活動

琵琶湖漕艇場(関西みらいローイングセンター)と淡海を守る釣り人の会で、2023年4月16日(日)に第5回琵琶湖漕艇場周辺の清掃活動を共同開催しました。以下報告します。

## 概要

- 日時 2023年4月16日(日)9:00～11:00
- 場所 琵琶湖漕艇場清掃(全域)
- 協力団体 関西みらいローイングセンター職員、漕艇部員、淡海を守る釣り人の会
- 参加者 計40名
- 回収ゴミ 可燃物(45L)12袋、ペットボトル94本、缶30個、瓶13個、その他ゴミ1袋

朝方までの雨も上がり、関西みらいローイングセンター職員、漕艇部員の中高生、釣り人会員の総勢約40名で全区域の漂着ゴミやポイ捨てゴミを拾った。漕艇場は全域釣り禁止であるが釣り関係ゴミがあるのは残念だが、1.5時間の活動で漕艇場が綺麗になった。今後も継続して活動を実施したい。



回収したゴミの量	
可燃ゴミ	12袋
ペットボトル	94本
缶	30個 / 1袋
瓶	13個 / 1袋
その他不燃物	1袋

お疲れ様でした。中学生は写真撮影の前に練習で抜けたので映らなくて残念。



次回活動(第6回)は2023年12月予定です。  
(文責：永田)

# 第8回滋賀セブンの森報告書

滋賀セブンの森の開催について以下にご報告いたします。

## ■概要

日時 2023年5月28日（日）9:30～12:30

場所 第2なぎさ公園～野洲川河口（約2km）

主催 淡海を守る釣り人の会、一般財団法人セブン-イレブン記念財団

協力 滋賀県、守山市、株式会社deps、株式会社ジャッカル、RYUGI JAPAN、  
昭和電機株式会社、龍谷大学大学院生、大阪産業大学生、立命館大学大学院生、  
神戸大学大学院生、明富中学校生徒会

参加者 計261名

回収ゴミ 可燃ごみ（45ℓ）83袋、ペットボトル1260本、缶250個、瓶300個 合計340kg



集合写真。年齢や職業が異なる様々な立場の参加者が協力して清掃活動を行いました。



まちのコイン「ビワコと連携し、参加者にコインの配布と抽選会を行いました。



当日琵琶湖で採取した生き物を展示し、清掃活動を行う意義を伝えました。



1200本以上のペットボトルを協力して分別・計数しました。



小学生以下の参加者も多く、次世代の環境リーダー育成に繋がる場となりました。



大川河口の自然再生の様子。タナゴ類の稚魚を初確認。産卵・育成の場として機能していることを確認できました。

# 淡海を守る釣り人の会 活動報告書



<概要>  
名称 「第9回滋賀セブンの森」  
日時 2023年9月24日(日) 9:30～13:30  
場所 第2なぎさ公園とその周辺



主催 一般財団法人セブン-イレブン記念財団／淡海を守る釣り人の会  
協力団体 セブンイレブン、コカ・コーラ(株)、昭和電機(株)  
参加者 約230名

回収ゴミ：可燃(45L)70袋、ペットボトル1600本、缶300個、瓶70個、不燃5袋



開会式の様子。清掃活動時の注意点、ゴミの分別、水分補給やライフジャケット着用についての注意点を説明。



琵琶湖に生きる生物の多様性を子供達に伝える展示も実施。(スタッフが事前に魚介類を捕まえ、水槽展示を行う)



守山市の森中市長のご挨拶



子供から大人まで、みんなで協力して琵琶湖をキレイにします。



今回もペットボトルのごみが目立ちました。



ゴミはきちんと分別して、どんなゴミがどの程度の量あるか計測します。



清掃活動の後はみんなで小さな自然再生(生物多様性保護)の活動も行いました。



内湖(大川)には、タナゴとその産卵のための貝もいました。



閉会式での集合写真。後ろには綺麗にした琵琶湖が広がります。

## ■まとめ

清掃活動と小さな自然再生の2部構成にも関わらず、県内外から多くの琵琶湖を愛する方々と釣り人が参加してくれました。日本が世界に誇る豊かな琵琶湖とそこに広がる自然環境を未来へとつなげるべく、気持ちを一つに活動を行いました。弊会としては、環境保護と生物多様性保護の両面から活動を滋賀県及び関西全体の地方活性化の起爆剤にしていきたいと考えております。

# 第27回釣り人による清掃活動

淡海を守る釣り人の会では、令和5年3月5日（日）に第27回釣り人による清掃活動を開催しました。以下、報告です。



- 概要
- 日時 令和5年（2023年）3月5日（日） 9:00～11:30
  - 場所 湖岸公園（志那町）
  - 主催 淡海を守る釣り人の会
  - 協力団体 草津湖岸コハクチョウを愛する会、昭和電機株式会社、株式会社deps、株式会社ジャッカル、株式会社三菱UFJ銀行、株式会社釣りビジョン、Apple Japan合同会社、龍谷大学大学院、立命館大学、大阪産業大学、守山市立明富中学校、滋賀県、草津市議
  - 参加者 計118名
  - 回収ゴミ 可燃ごみ（45ℓ）130袋、ペットボトル360本、缶250個、瓶20個



受付の様子。「まちのコイン（ビワコ）」と連携し、参加者にコインを配布しました。



琵琶湖固有種ホンモロコの産卵に向け、石の隙間などに挟まったごみを回収しました。



葉山川での清掃活動の様子。茂みに隠れたごみが琵琶湖に流入する前に回収しました。



ご家族でごみ拾いを楽しんでくださった方も多くおられました。



分別の様子。回収された大量のゴミを協力して分別しました。



集合写真。釣り人、民間企業、行政など様々な立場の人々が協力し、楽しんで清掃活動を行いました。

# 淡海を守る釣り人の会 活動報告書

2023年4月9日（日）清掃活動を開催しました。



## ■概要

名称 「第28回 釣り人による清掃活動 with AXSEED」  
日時 2023年4月9日（日） 9:00～11:30  
場所 湖岸公園（志那町）  
主催 淡海を守る釣り人の会  
協力団体 株式会社AXSEED (寄付を頂いた法人様)  
参加者 計70名  
回収ゴミ 可燃ごみ（45ℓ）50袋、ペットボトル151本、缶120個、瓶70個



開会式の様子。清掃活動時の注意点やゴミの分別などについて説明を行いました。



琵琶湖固有種ホンモロコの産卵を確認しました。



お子様をお連れのご家族もご参加頂きました。



岩の隙間に挟まった農業用ビニールやプラスチックトレイなどが取りにくく、苦労しました。



分別の様子。回収された大量のゴミを協力して分別しました。



集合写真。釣り人や一般参加者だけではなく、東京から協賛企業の代表取締役を含め全70名で実施しました。

## ■まとめ

前回の清掃活動からそれほど日数が経過していなかったため、ごみの量はそこまで多くはなかったが、相変わらず細かなプラごみ、岩の隙間に挟まったゴミ、キャンパーが捨てたゴミなどが確認できました。キレイな水辺環境保護のため、これからも活動を続けていきます。

# 第29回釣り人による清掃活動

淡海を守る釣り人の会は、矢橋帰帆島において第29回釣り人による清掃活動を開催しました。以下報告します。

## 概要

- 日時 2023年11月26日(日)9:00～12:00
- 場所 矢橋帰帆島(矢橋南橋南側周辺の湖岸と水路)
- 主催 淡海を守る釣り人の会
- 参加者 51名(釣り人、MUFG、村田製作所、コカコーラジャパンなど)
- 回収ゴミ 可燃ごみ(45L)83袋、ペットボトル75袋(約2250本)、缶16袋(約500本)、瓶6袋(約180本)、その他ゴミ15袋

矢橋帰帆島水路は北西風、湖流および川からの漂着ゴミがたまりやすい所であり、過去2回この水路でゴミ拾いを実施したがまだ未実施の場所もあり、今回3回目はその帰帆南橋周辺を計画した。琵琶湖水位が-60 cmで、水辺には入り易かったが増水時期のゴミがヨシ原や樹木のある奥に埋もれており回収に苦労した。

Before



ゴミ拾い



ゴミ分別



集合写真



ゴミ積込



38年前の缶を回収

次回は来年春に南湖東岸の清掃活動を計画しています。  
(文責：永田)

# 淡海を守る釣り人の会 活動報告書

2023年6月18日（日）清掃活動を開催しました。



<概要>

名称 「第2回矢橋帰帆島 釣り人による清掃活動／淡海を守る釣り人の会 x MUFG」

日時 2023年6月18日（日） 9:30～12:30

場所 矢橋帰帆島（草津市）周辺



←最もゴミの量が多いエリアで実施

主催 淡海を守る釣り人の会

協力団体 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ(寄付を頂いた法人様)

参加者 計136名

回収ゴミ 可燃(45ℓ) 154袋、ペットボトル4000本、缶2850個、瓶250個、不燃50袋



開会式の様子。清掃活動時の注意点、ゴミの分別、水分補給やライフジャケット着用についての注意点を説明。



かなりの量のペットボトルが目立ちました。



UFJ銀行役員様、各支店長の皆様、MUFGの皆様共にゴミの量に驚きながらも清掃活動を実施しました。



MUFGの皆様、釣り人、地域住民が協力し心を通わせながらゴミを拾います。



分別作業も全員で協力して行いました。



大量の拾ったゴミを前にして集合写真。協賛企業の皆様からも「とてもいい活動ですね。今後も協力させてください」とお言葉を頂きました。

## ■まとめ

近年の活動の中でも最大級のゴミの量でした。限られた人数と時間では全て拾うことが出来ない程でした。その中でもペットボトルなどの容器系のゴミが目立ちました。活動エリア周辺は車の往来も多く、清掃活動だけではなく参加者全員の安全面への配慮も今後より一層検討して参ります。美しく様々な生物が住みやすい水辺環境保護のため、これからも活動を続けていきます。

【実施箇所位置図】

助成番号	助成事業名		所属・助成事業者氏名	
2023-6111-014	釣り人による清掃活動		淡海を守る釣り人の会 木村建太	
主な実施箇所	草津志那湖岸公園			
助成事業の主な実施箇所				
河川基金ロゴ等表示状況写真	遠景		近景	
				
延べ参加人数	一般	100名	スタッフ・事務局	20名
マスコミの反響	<p>雨の中釣り人 釣り業界関係者が多数参加。</p> <p>ライフジャケット着用の啓発活動も行った。</p> <p>よく翌週に開催された琵琶湖マラソン前の清掃活動でした。</p>			